



一東北生産性本部一

生産性運動の原点

1953年 ヨーロッパ生産性本部設立

1948年アメリカの経済協力法に基づいて、ヨーロッパ経済協力機構OEE（現在のヨーロッパ経済協力開発機構OECD）が設立され、生産性向上運動を推進するために1953年にヨーロッパ生産性センター（EAP）が設立された。その後、ヨーロッパ諸国やアジア諸国に生産性本部が設立された。

1955年（昭和30年） 日本生産性本部設立（設立趣意書より抜粋）

生産性の向上とは、資源、人力、設備を有効かつ科学的に活用して生産コストを引き下げ、もって市場の拡大、雇用の拡大、実質賃金ならびに生活水準の向上を図り、労使および一般消費者の共同の利益を増進することを目的とする。生産性の向上は、生産を担当する経営者、労働者はもとより、広く全国民が深い理解をもって、これを協力することなくしては、到底十分な効果を期待することはできない。我々がここに経営者、労働者および学識経験者を一体とする日本生産性本部を設立せんとする所以は、これを我が国における公正な生産性向上運動の中核たらしめ、日本経済発展の礎とたらしめんことを念願するからに外ならない。

1959年3月

ヨーロッパ生産性本部生産性委員会・ローマ会議の報告より抜粋

<生産性の定義>

生産性とは、何よりも精神の状態であり、現在するものの進歩、あるいは不断の改善を目指す精神状態である。それは、今日は昨日よりもより良くなし得るという確信であり、更には、明日は今日に優るという確信である。それは、現状がいかに優れたものと思われ、事実また優れていようとも、かかる現状に対する改善の意思である。それはまた、条件の変化に経済社会生活を不断に適応させていくことであり、新しい技術と新しい方法を応用せんとする不断の努力であり、人間の進歩に対する信念である。

東北生産性本部の発祥

1956年（昭和31年）7月 生産性東北地方事務所設置（仙台商工会議所内）

1955年3月に日本生産性本部が設立され、同年5月、東京で第1回生産性連絡会議が開催された。生産性運動の基本路線として『生産性三原則』が打ち出されたのを受けて、東北地方の企業および労組への働きかけの拠点として設置された。

1957年(昭和32年)3月25日 東北生産性本部設立

総会では初代会長に、それまで生産性運動の組織づくりに活躍してこられた東北電力株式会社・内ヶ崎社長を選出した。内ヶ崎会長は、『生産性運動は、後進地域である東北地方にこそ、活発に推進しなければならないが、この中核体である生産性東北地方本部が、漸く発足の運びとなった。今後は、この組織をどう運用していくかが大切な課題であるが、労使とも謙虚な気持ちでハラを割って話し合う気風をつくり、成果を挙げるよう努力したい』と挨拶された。東北大学の教授陣や東北電力労働組合など多数の労働組合も参加した。東北の生産性運動は、日本経済が高度成長期にさしかかり、東北経済も遅ればせながら、漸く第一次産業主導型から脱皮しようとした時期のスタートとなり、種々試行錯誤が繰り返された。同時に激しい経済変化の波との闘いでもあった。

1956年(昭和31年)10月13日東北電力労使間で日本で初の生産性労働協約締結
会社と組合は、相互の基本的権利義務を尊重し、労使間の理解と信頼とを深め人間関係の正しい在り方を顕現すると共に生産性の向上に努め、その成果は資本の蓄積・従業員の待遇向上・需要家(お客さま)への奉仕等に公正に配分し、もって事業の発展に寄与することを確認する。

第一義 ~外から良く見えるもの~

失敗に終わった北朝鮮のミサイルが気になる中、41年前に同じ職場に入社したY夫婦と、四人2夫婦で、台湾へ卒業旅行に出掛けた。仙台から台北への直行便で、ほぼ四時間(時差1時間)空席もかなり目立ち、ここでも震災の影響を感ずる 台北に滞在し、中国人で込み合う故宮博物院と、戦死者の英霊を祭る忠烈祠を見学した。故宮博物院では中国の皇帝に捧げた美術品に堪能しながら台湾の統治の歴史に思いを馳せる。縁起の良い、蝙蝠、蝶々、蝉、豚がいたるところに描かれおり、収蔵品が60万件冊を超える。訪れる中国人は返せと足早に帰るといふ 忠烈祠での凜々しい海軍衛兵の姿は、国を守る誇りが滲み出ていた。交代式に選抜される兵士は、体力知力に優れており、企業などから引く手数多。同じように国事に殉じた人々の霊を合祀する靖国神社を思い出した。過去は美化されやすいが、当たり前なことを当たり前に行える国が必要と感じた。国家意識が希薄な日本、政治の問題なのか、教育の問題なのか、ミサイル発射や外から教えられるのでは困る 足裏マッサージ、同じ店に3日連続通った。リピーターが多く、やみつきになるのが判る。冷え性の足も血行が良くなりポカポカになったというY夫人、来年の旅も約束された。台湾から日本を知る卒業旅行であった。(記S・S)